

日本海スルメイカ漁場開発調査

(東奥丸・イカ類漁場調査、青鵬丸・魚群情報速報事業)

中田 凱久・十三 邦昭・涌坪 敏明

発表誌名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅻ（昭和62年4月）及び、昭和61年度外洋性イカ（スルメイカ、アカイカ）に関する生物測定、標識放流、海洋観測基礎資料集

抄録

昭和61年5～12月の期間、試験船東奥丸と青鵬丸によって漁場調査を実施した。

1. 本県対馬暖流の勢力は、昭和59年ほどではないが、9月を除いてはいずれの月も、例年より弱勢に推移した。
2. 期間中、東奥丸で24回、青鵬丸で35回、計59回の漁獲試験により、スルメイカ2,065尾釣獲したが、不振であった昨年、一昨年の約 $\frac{1}{3}$ と極めて低調であった。
3. 魚体は、沖合、沿岸漁場とも、ここ5ヶ年間では最も小型で、月毎には沖合では5～9月、沿岸では、6月と11～12月が特に小型であったのが特徴であった。
4. 日本海からの本県における総水揚量は、14,409トンで、本格的に沖合漁場に出漁した昭和47年以降では最低であった。
5. 漁場別には、沿岸域の漁獲量は1,567トンで、60年に次ぐ不漁、沖合漁場では12,842トンで47年以降最低であった。